



4:16 それからイエスはご自分が育ったナザレに行き、いつもしているとおり安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。
 4:17 すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その巻物を開いて、こう書いてある箇所を留められた。
 4:18 「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、
 4:19 主の恵みの年を告げるために。」
 4:20 イエスは巻物を巻き、係りの者に渡して座られた。会堂にいた皆の目はイエスに注がれていた。
 4:21 イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました。」
 4:22 人々はみなイエスをほめて、その口から出て来る恵みのことばに驚いて、「この人はヨセフの子ではないか」と言った。
 4:23 そこでイエスは彼らに言われた。「きつとあなたがたは、『医者よ、自分を治せ』ということわざを引いて、『カペナウムで行われたと聞いていることを、あなたの郷里のここのでもしてくれ』と言うでしょう。」
 4:24 そしてこう言われた。「まことに、あなたがたに言います。預言者はだれも、自分の郷里では歓迎されません。
 4:25 まことに、あなたがたに言います。エ

リヤの時代に、イスラエルに多くのやもめがいました。三年六か月の間、天が閉じられ、大飢饉が全地に起こったとき、
 4:26 そのやもめたちのだれのところにもエリヤは遣わされず、シドンのツアレファテにいた、一人のやもめの女にだけ遣わされました。
 4:27 また、預言者エリシヤのときには、イスラエルにはツアラアトに冒された人が多くいましたが、その中のだれもきよめられることはなく、シリア人ナアマンだけがきよめられました。」
 4:28 これを聞くと、会堂にいた人たちはみな憤りに満たされ、
 4:29 立ち上がってイエスを町の外に追い出した。そして町が建っていた丘の崖の縁まで連れて行き、そこから突き落そうとした。
 4:30 しかし、イエスは彼らのただ中を通り抜けて、去って行かれた。

イザヤ書は救い主の出現と生涯について多く書かれています。イエス様こそがその約束された方であるというのが、ユダヤ人にとっての福音理解でした。ですからイエス様は「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました。」と宣言なさったのです。

しかし多くの人々は「ヨセフの子ではないか」と、イエスなどただの人だとして受け入れませんでした。そこでイエス様は、歴史におけるイスラエルの不信仰を例に出して、彼らの不信仰を指摘なさったのです。

イエス様でさえその宣教は、拒絶と偏見の中でなさったのです。私たちはそのような状況を恐れすぎているかも知れません。もしもイエス様やこれまでのクリスチャンたちが、拒絶や偏見を恐れていたなら、私たちは救われていなかったでしょう。今よりも少し勇気を出して行動してみましょ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

